

## 新年のごあいさつ

公益社団法人東京都リサイクル事業協会(東リ協会)

理事長 上田雄健



皆さまにおかれましては輝かしい新春をお迎えのことと拝察申し上げます。日頃より当協会の運営にご理解とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

昨年私どもは、東京都知事より公益社団法人への移行認定を受け、4月1日から新たなスタートを切りました。これも多くの関係者の皆さまによる日頃からのご支援の賜物と厚く感謝を申し上げます次第です。

これを受けて7月には、「リサイクルの公益性を考える」をテーマにした移行認定記念フォーラムを開催し多数の方のご参会をいただきました。リサイクルの公益性に対する社会的関心の高さと私どもへの期待の現れを改めて認識したところです。

一方、長年の懸案である古紙持ち去り行為は、リサイクルの秩序を乱し、公益に著しく反する反社会的行為といわざるをえません。残念ながら、未だ根絶には至ってはおりませんが、対応策は徐々に整備されてきましたといえます。

例えば関東製紙原料直納商工組合では、行政との協力連携のもと、一昨年よりGPS追跡調査を実施。持ち去り古紙の常習的買入問屋を特定し、事業者名を公表するまでになりました。また、リサイクル関連8団体からなる古紙持ち去り問題意見交換会の「古紙持ち去り根絶車識別（ステッカー）制度」も約1,100台弱の車両が登録され、ステッカー貼付車両が市中を走り回っています。他方行政の持ち去り禁止条例は、都内で約7割の区市町（島じょ除く）が条例を施行するまでになりました。



古紙持ち去りに限らず、円滑に再生資源を流通させるためには、行政事業の入札問題、古纖維のブローカー等による無選別輸出の問題、リターナブルびんの衰退等々、多くの課題が山積しています。5年後の東京オリンピック・パラリンピックもう間近です。

いずれもリサイクル業界だけでは解決困難のものばかりで、都民・事業者・行政機関等さまざまなプレーヤーの方々との連携協力が不可欠です。皆さまにおかれましては、当協会を関係諸機関とリサイクル業界との橋渡し役等として、ご活用いただきますとともに、今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



平成 26 年を振り返り、再生資源リサイクル分野における 10 大ニュースを挙げてみました。  
詳細は次頁で紹介しています。

### 1 古紙持ち去り対策

-GPS追跡調査で常習的買入事業者(問屋)が特定される

### 4 古紙リサイクル -「雑がみ」グレードが浸透

### 5 リターナブルびん -牛乳びん(学校給食用)導入支援の取り組みはじまる

### 6 PETボトルリサイクル -国内流通の正常化

### 7 古紙持ち去り対策 -18区と関連団体・連携の覚書締結

### 8 ポイント制店頭回収 -古紙の展開徐々に増える

### 9 古紙持ち去り対策等 -輸出委員会が発足

### 10 東リ協会 -公益社団法人として新たにスタート

■ 平成 26 年リサイクル業界 10 大ニュース	→ 2 ~ 3 頁
■ リサイクルフォーラム (報告要旨)	→ 4 ~ 5 頁
■ 職場体験学習 受け入れ	→ 6 頁

# 再生資源リサイクル 25年10大ニュース

## 1 古紙持ち去り対策

-GPS追跡調査で常習的買入事業者(問屋)が特定される

関東製紙原料直納商工組合が自治体と協力して実施してきたGPS追跡調査により、常習的買入事業者が特定されました。同組合では改善要望に応じない3社の氏名公表を実施しました。

## 2 再生資源の輸出

-円安で価格上がる(為替\$1=¥120の円安)

為替相場が120円/ドルの円安となり、古紙、鉄・非鉄スクラップ、PETボトル等輸出されている再生資源の価格が上昇しました。

## 3 アルミ缶の価格が急騰

アメリカのメーカーが韓国に大規模なアルミ缶製造拠点を置いたのをきっかけに、国内のアルミ原料が品薄となり、アルミ缶価格が急騰しました。

## 4 古紙リサイクル -「雑がみ」グレードが浸透

「雑がみ」を分別回収の品目に加える自治体が増加してきました。「雑誌」の品質確保と可燃ごみにされていた資源化できる古紙がリサイクルに回されることが期待されます。



## 5 リターナブルびん -牛乳びん(学校給食用)導入支援の取り組みはじまる

リターナブルびんの衰退に歯止めをかけようと、びん再使用ネットワークが、希望する自治体に対して学校給食用牛乳びんの導入支援事業をはじめました。



## 6 PETボトルリサイクル -国内流通の正常化

高品質な PET ボトルフレークを製造する装置を導入する事業者が増え、国内需要が高まりました。PET ボトル toPET ボトル、PET ボトル to トレー（卵パック）リサイクルが促進しました。

## 7 古紙持ち去り対策 -18区と関連団体・連携の覚書締結

古紙持ち去り対策の面的展開を図ろうと、東京 18 区と関東製紙原料直納商工組合、東京都資源回収事業協同組合、日本製紙連合会の 4 者で、GPS 追跡調査実施等の覚書を交わしました。（3 区は H26 年度中の予定）

## 8 ポイント制店頭回収 -古紙の展開徐々に増える

スーパーマーケット等の店頭に、資源を持ち込み、従量に応じて発行されるポイントを貯め、買い物等に使えるのがポイント制回収システム。これまで PET ボトル等で行われていましたが、古紙でも徐々に展開されるようになってきました。

## 9 古紙持ち去り対策等 -輸出委員会が発足

回収古紙の 2 割以上を占める輸出古紙の品質安定化や古紙持ち去りへの対応を図るために、（公財）古紙再生促進センターが、国内外の輸出商社や古紙問屋等からなる検討組織を立ち上げました。

## 10 東リ協会 -公益社団法人として新たにスタート

当会は都知事より公益社団法人の移行認定を受け、リサイクル業界唯一の公益法人として平成 26 年 4 月より新たなスタートを切りました。

# リサイクルフォーラム開催報告（要旨）

## 「リサイクルの公益性を改めて考える」

循環型社会の構築という社会的要請から、リサイクルの公益性が益々高まっています。当協会は平成26年4月1日に公益社団法人へと組織移行しました。これを機に、都民・事業者・行政等の各機関の皆さまと、改めて公益性の視点からリサイクルの現状と今後のあり方について考えてみようと、フォーラムを開催しました。

- 日 時：平成26年7月14日（月） 17:20～19:30
- 場 所：ホテルラングウッド（荒川区東日暮里） 2F鳳凰の間
- 参加者：142名



### ■来賓あいさつ

東京都環境局資源循環推進部長  
齊藤和弥 様



清掃事業の都区移管から15年を経過し、組織名称を廃棄物対策部から資源循環推進部へと変えた。ウエイストマネジメント（廃棄物適正管理）からリソースリサイクリングプロモーション（資源循環推進）に主眼を置いていくこととなる。

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが招致決定した。1964年の東京オリンピック時には、劣悪な環境下のごみ収集がポリ容器収集に転換できた。2020年を目標としてもっと議論をしていきたい。大きな課題の1つは事業系のリサイクルの推進と考えている。R団連（東京都リサイクル事業団体連合会）時代はひざをつけあわせて議論することから出発した。リサイクル現場の知恵を拝借したい。お力添えいただきたい。

### ■基調講演

「リサイクルの過去・現在・未来  
～その公益性を考える～」  
独立行政法人製品評価技術基盤機構 理事長

安井 至 様



もともとリサイクルは「まだ使えるものを捨てるのはもったいない」という思想で行われ公益性を有していた。その後1996年容器包装リサイクル法施行以降は、ごみの最終処分量を減らす政策が相次いで打たれ、その量も56百万tから19百万tへと激減することに成功した。つまり、次に土地がもったいなから「最終処分地を延命化」させることに公益性の中身が変わった。

本来はリデュース>リユース>リサイクルであるべき

で、リサイクルはできるだけ水平リサイクルとすべき。よってこれから循環型社会達成のためには、リサイクルより優先度の高い循環を実現するリユースに注力するのもよい。一方でリユースびんの出荷は増えたものの、リユース率が27%に過ぎないという事例もある。リユースびんはワンウェイびんに比べ重い。重いびんをわざわざ作ってカレットにするのでは意味がなく、課題は多い。

地球レベルの環境問題では、特に気候変動にはリサイクルが影響を及ぼす。2100年（今世紀末までにどのくらいCO<sub>2</sub>排出量を下げられるか）が地球の未来を決めてしまう。人類は今世紀末までに「定常状態」をめざして歩むしかない。

今使える一次エネルギーは自然、原子力、化石燃料の3種類。しかし、自然エネルギーはきまぐれ、原子力は危険、化石燃料は地球を破滅させる。今はどれも完全ではないので、ほどほどにそれぞれを使っていくしかない。2100年位までに化石燃料やウランは使わないで、自然エネルギーだけで運営していく筋道を書かなければならぬ。それで90%の問題は解決できる。しかし難しい。

今は化石燃料がもったいないとなっている。定常状態に向かうことは、結果として「昔へ回帰」となるのではないだろうか。その時もったいないものは、金属・紙・ガラスに戻っているだろう。今世紀末までにどうつないでいくかが政策的に重要である。（講演では品目別内容のご説明がありました）

### ■リレートーク

#### ●古紙

全国製紙原料商工組合連合会理事長 当会理事  
栗原正雄



日本の古紙は海外輸出によって国内の需給バランスが保たれている。輸出の8割を中国に依存しているが、

同国の生産量が頭打ちとなってきている。古紙はその物的特性から、国内在庫（問屋・メーカー）能力は 60 万トン（10 日分）程度で、余剰リスクがつきまとう。海外で広く日本の古紙を使ってもらうために、高品質な古紙供給がポイント。全原連では「J ブランド」の確立によって世界一良質な古紙輸出できる体制づくりをめざしている。

行政による入札制度は、異常な高値競争となり古紙問屋の事業基盤に支障をきたす。安定流通に日頃努力している古紙商品化適格事業所と廃棄物再生事業者登録を入札資格としていただきたい。他の業者は余剰リスクをしょっていられない。

## ●古纖維（古布）

関東古纖維協会副会長

**木村 誠**



古纖維リサイクルのはじまりは明治時代の 1 世紀半前にさかのぼる。60 年前より纖維屑輸出組合をつくり海外輸出も行ってきた。古纖維リサイクルの内需は「ウエス・反毛・フェルト等」、外需は「中古衣料」というビジネスモデルを形成してきた。特に、世界人口の 70% 以上が年収 30 万円以下の BOP(ボトムオブピラミッド) 層に日本の中古衣料を届けるのが古纖維業界の役割。

古纖維の発生量が 200 万トン / 年に対して回収量が 30 万トンとリサイクル率は低い。今後 23 区の古纖維回収システムの構築による回収量の拡大が課題。

行政の入札制度へ異業種参入が目立ってきた。海外へ丸投げ輸出をするケースが多く、ごみの適正処理面で懸念がある。当業界では 150 種類に選別加工する労働集約型産業で、選別作業員は技能職。3 ヶ月単位の入札制度は価格だけが評価軸になっており、安全・安心な事業方針や持続継続可能性等が評価されていない。行政や資源回収業界の皆さんに実態をご理解いただきご支援いただきたい。

## ●リターナブルびん

東京壟容器協同組合理事長

**田村豊也**



リユースびんは明治 30 年代（約 120 前）にびん商が事業をはじめた。最盛期は昭和 50 年代で、800 万トン流通していた。現在は 100 万トン強で 1/8 となっており、絶滅危惧種といわれてしまっている。現在、びん商は区市町村の分別回収事業に参加させてもらっている他、メーカーへの容器の供給～処理までを行う等、総合容器

取扱業として事業展開している。

昨年から環境省の実証モデル事業に参加している。リターナブルびんの実態調査したところ 250 種類のリユースびんが市場に出回っていることがわかった。リターナブルびんは需給バランスが地域偏在しており、これを調整するためにウェブサイトを活用したシステム構築を考えている。また関東甲信越は中小の清酒メーカーが多く、720ml の調査したら 24 年度で 113 万本の実績があった。今後の目標を 27 年度は 167 万本、最終的には 500 万本をめざしている。またグリーン購入法に対応した飲料容器の取り扱いをめざしていきたい。業務用では、飲み屋の 50% はチェーン化されており、チェーン店での取り組みを呼びかける。量販店では PB ブランドが普及しているので、これをリユースびんにすることを模索中である。

## ●スチール缶・アルミ缶、 PET ボトル・廃プラスチック

港区リサイクル事業協同組合理事長 当会理事

**永田博孝**



## ○スチール缶・アルミ缶

アルミ缶のリサイクル率は 90% を超えていたが、昨年急減した。理由は、ノベリス社（米庄延メーカー大手）が韓国に工場を新設し、ここにアルミ原料が流れただけである。

自動車のエンジンはアルミで作られている。トヨタが燃料電池車を今年中に発売する予定。燃料電池車はエンジンを載せないので、今後アルミの消費量は大きく変わることを認識すべき。

価格の推移は、日刊市況通信社の C プレスとアルミのメーカー買値を資料に掲載した。東リ協会では、H2 (特級) のマイナス 1 万円 / トンと公表している。1992 年～2002 年までは鉄スクラップは 1 万円 / トン位でなかなか上がらなかった。現在は中国の経済成長により価格が 2 ～ 3 万円 / トンが推移している。

## ○ PET ボトル・廃プラスチック

PET ボトルはペレットやフレーク化技術の向上により優良な再生原料として有価物で売れるようになってきた。今年度の入札価格は 49 円 / Kg 前後となっている。当初は 60 円 / Kg 台だった。欧州向けの中国繊維産業が急激に業績悪化し、10 円下げの要因となっている。そのため R 協会の入札は年 2 回となった。

廃プラスチックの回収は、今後各自治体で開始するものと思われる。プラスチック包装のリサイクルは材料リサイクルの再商品化量がかなり少ないのが問題。一方ケミカルリサイクルの再商品化率は高い。材料リサイクルは残さが多い。現在国の 2 つの審議会（経産省と環境省）で検討されている。

# 東村山市立第二中学校 職場体験学習 受け入れ

東村山第二中学校からの依頼により、平成25年11月28～29日の2日間にわたり、同校の1年生13名の職場体験学習を受け入れました。生徒さんたちは、東多摩再資源化事業協同組合の事業所4社に分かれて、資源回収車両に同乗し古紙等の回収体験をしたり、ヤードで選別・加工作業にあたりました。また、同組合の会議室で紙すき体験やリサイクル講習会を受講していただきました。以下に生徒さん方からいただいたお礼状の一部をご紹介します。

## <参加した生徒さんのお礼状（一部要約抜粋）>

●この度はおいそがしい中職場体験ということで2日間ありがとうございました。

今回の体験で楽しかったことは古紙の山で紙として再利用できないものを取り除く作業やベルトコンベアでの作業です。今まで平気で捨てていたゴミも手作業で分別して再利用していることがすごく新鮮で印象に残りました。古紙の山で作業をしていて上から働いている姿を見ていると自分たちよりはるかに手際が良く、「働く」とはこう言ったことを言うのかなと感じました。街へ出てダンボールや雑誌、古布などを回収する際にも車の中で話しかけていただいたりとすごく楽しかったです。ダンボールは思ったよりも重くて2日間働いただけでも疲れてしましました。でもすごく有意義で充実した時間を作ったと思います。

これからはいよいよ受験ですが今回、「仕事のビジョンが具体的になり高校、そして就職のための大切なものになったと思います。プライドを持ってとりくめるように努力します。今回は本当にありがとうございました。これからも頑張ってください。

●紙についての基礎から応用まで全て教えていただく事ができ、仕事をするうえで大切な事、安全をきちんと確認する事や、きちんとした気持ちで仕事に臨むことなどをしっかりと教わりました。

●正直、ごみの回収だと聞き、嫌だとずっと思っていました。しかし、体験してみると大変だけど楽しかったです。車内では水野さんには、古紙の回収車の構造についてや、古紙ののっている量によって車の乗り心地が変化する事を教えていただき、大変勉強になりました。

●ダンボールや古紙を車に投げ込む作業が楽しかったです。

●三栄サービスからいかしたいことを2つ挙げます。まずいつも笑って明るく元気に仕事をする。お金も大切だが、その仕事に情熱を持ってやることだと思いました。（中略）今後の学校生活で活かし、将来の仕事に活かしていきたいと思います。

●（中略）仕事は、とてもやりがいがあるものばかりで、回収しているとき、町の人に「ありがとうございます」と言われると、仕事のやる気も出てくるし、仕事の終わった時の達成感があり、とても楽しく仕事をする事ができました。

■受入企業（五十音順）：株式会社三栄サービス、J.P.資源株式会社、日興紙業商事株式会社、ケイシン（以上東多摩再資源化事業協同組合の4社）



古紙の回収作業



古紙の選別作業



紙すき体験



講習会



組合事務所前で



# 謹んで新春の お慶びを申し上げます



会員一同

東京都資源回収事業協同組合  
理事長 吉浦高志

東京壟容器協同組合  
理事長 田村豊也

関東製紙原料直納商工組合  
理事長 大久保信隆

東京都製紙原料協同組合  
理事長 近藤 勝

東京硝子原料問屋協同組合  
代表理事 菅沢和志

関東古纖維協会  
代表 中野聰恭

千代田区リサイクル事業協同組合  
代表理事 高橋 健

中央資源リサイクル事業協同組合  
理事長 今井一夫

港区リサイクル事業協同組合  
理事長 永田博孝

新宿区リサイクル事業協同組合  
理事長 佐藤一郎

東京包装容器リサイクル協同組合  
代表理事 笠井仁志

文京区リサイクル事業協同組合  
理事長 吉川美知子

墨田リサイクル事業協同組合  
代表理事 藤本幸一

江東リサイクル協同組合  
理事長 大木健司

目黒区古紙回収業者連絡協議会  
会長 斎木達也

大田区リサイクル事業協同組合  
代表理事 西 義雄

世田谷リサイクル協同組合  
理事長 井上英之

渋谷区リサイクル事業協同組合  
理事長 信太政光

中野区リサイクル協同組合  
代表理事 北田武夫

同栄資源回収事業協同組合  
代表理事 山田祐康

北区リサイクラー事業協同組合  
理事長 鰐渕雄二郎

板橋区資源リサイクル事業協同組合  
理事長 皆川三彦

青梅資源リサイクル事業協同組合  
代表理事 吉崎稔旺

八王子資源化事業協同組合  
代表理事 池畠英樹

日野市資源リサイクル事業協同組合  
代表理事 福地伸行

東多摩再資源化事業協同組合  
理事長 吉浦高志

多摩市リサイクル協同組合  
代表理事 佐々木義春

町田市資源協同組合  
理事長 藤井孝春



商標登録番号 4882482号

# 地域のリサイクルパートナー

当組合は、東村山市・小平市・西東京市・東久留米市・清瀬市・東大和市の6市(総人口:811,903人平成26年1月1日現在)を事業範囲とし、再生資源物(古紙・古布・金属類・ビン・カン等)を回収・再資源化する事業者の組合です。各市より業務委託を受け、資源物の回収・ヤード受入れ、及びリサイクルセンターでの選別作業、集団回収業務等を行っています。

信頼される組合を目指して官公需適格組合を取得しています。官公需適格組合は、所轄官庁(経済産業省・中小企業庁)より厳しい審査を得て、官公需の受

注に対して十分に履行できることを証明された組合であり、平成17年より関東経済産業局より認証を受けています。

組合の運営に関わる環境負荷の低減のためにエコアクション21の認証を取得しています。組合員にも、ISO14001やEA21の取得を推進し、環境にやさしい事業運営に努めています。

なお、機関誌『ヴィーナス通信』を年3~4回発行しておりますので、購読を希望される方は、ご連絡下さい。

## 東多摩再資源化事業協同組合

理事長 吉浦高志 副理事長 萩原貞雄 副理事長 古川敏雄  
副理事長 小畠和夫 専務理事 紺野琢生

〒189-0003 東京都東村山市久米川町1-16-18  
TEL 042-395-9788 FAX 042-395-9787  
[HPアドレス] <http://www.h-recycle.or.jp>  
[Eメール] [ri3196@oak.ocn.ne.jp](mailto:ri3196@oak.ocn.ne.jp)



製紙原料商社

## 三弘紙業株式会社

代表取締役会長 上田雄健  
代表取締役社長 上田晴健  
本社〒113-0033 東京都文京区本郷1-30-17  
☎(03) 3816-1171(代) <http://www.sankopaper.co.jp>

### フェニックスリサイクルセンター

白山営業所	文京区白山 3-1-6	☎ (03) 5689-0681
板橋営業所	板橋区大谷口北町 6	☎ (03) 3955-4166
朝霞営業所	朝霞市泉水 1-8-21	☎ (048) 464-5255
八王子営業所	八王子市宮下町 54-1	☎ (042) 691-0221
相模原営業所	相模原市緑区西橋本 1-19-19	☎ (042) 773-1194
鳩ヶ谷営業所	川口市南鳩ヶ谷 6-11-1	☎ (048) 284-5501
戸田営業所	戸田市下笛目矢口 165-1	☎ (048) 445-4546
大宮営業所	さいたま市中央区円阿弥 5-4-7	☎ (048) 852-6456
吉原営業所	富士市江尾字中原 135-2	☎ (0545) 34-1870
加須営業所	加須市大桑 2-12-1	☎ (0480) 66-1601
みかもリサイクルセンター	佐野市田島町 236-1	☎ (0283) 27-3375
裾野営業所	裾野市今里 542-7	☎ (055) 965-3523
昭島営業所	昭島市松原町 2-3-17	☎ (042) 544-3004
静岡営業所	静岡市駿河区中島 613-1	☎ (054) 281-7176
JRC	台東区元浅草 4-2-1	☎ (03) 5827-2845

### 編集後記

昨年も古紙持ち去り対策に追われた一年でした。関東製紙原料直納商工組合が自治体と協力しながら実施したGPS追跡調査は効果をあげ、常習的買取問屋の特定につながり、社名を公表するまでになりました。

にもかかわらず、GPS追跡調査をする度に、相変わらず常習的買取問屋へ持ち去られた古紙が運び続けられている事実が明らかになるばかりで、当該事業者は抜本的な改善策を講じているようにはみえません。杉並区でも古紙持ち去り業者の氏名公表も回を重ねておられますが、同じ者が毎回名を連ねており、さすがに虚しさを禁じえません。

約90年も前になりますが、かのマハトマ・ガンジーは、「7つの社会的罪」を指摘されていたようです。その1つに「道徳なき商業(Commerce without Morality)」をあげています。近年の日本では「振り込め詐欺」「危険ドラッグの蔓延」等が大きな社会的問題となっていますが、古紙持ち去り行為も、まさに道徳欠如のふるまいであることは否めません。常習的事業者にその自覚をきつく促さなければなりません。社会全体で知恵を絞って、古紙持ち去りを撲滅し、リサイクルの公益性を確保していきたいものです。

We りさいくる 第24号

発行日：平成27年1月5日

発行人：上田雄健 編集人：永田博孝

発行所：(公社) 東京都リサイクル事業協会  
111-0055 東京都台東区三筋 2-3-9-701  
TEL:03-5833-1030 FAX:03-5833-1040  
<http://www.torikyokai.org>

印刷所：恵友印刷(株)